

会議録

会議の名称	令和4年度 第4回加西市総合政策審議会									
開催日時	令和4年9月22日(木) 午後2時から午後4時まで									
開催場所	加西市民会館 3階 小ホール									
議長の氏名 (会長 和田 真理子)										
出席及び欠席委員の氏名										
<出席委員>										
・荒木 努 　・上田尾 真 　・大野 聖佳 　・岡田 美香 　・高木 雄太										
・谷勝 公代 　・辻田 聰信 　・中野 重美 　・橋本 真由美 　・濱本 泰秀										
・樋口 真史 　・藤本 文俊 　・山下 光昭 　・和田 真理子										
<欠席委員>										
・山本 聖										
傍聴者の人数										
一般：2人 報道機関：なし										
出席した事務局職員の氏名及びその職名										
・ふるさと創造部長 藤後 靖										
・ふるさと創造部人口増政策課長 小菊 啓靖										
・ふるさと創造部人口増政策課係長 吉川 雅人										
・ふるさと創造部人口増政策課係長 岩野 裕之										
・ふるさと創造部人口増政策課主任 千種 健史										
・ふるさと創造課人口増政策課主任 垣谷 直宏										
・ふるさと創造部人口増政策課主事 牛尾 充宏										
・ふるさと創造部人口増政策課まちづくり推進員 小山 映										
1 議事										
(1) 全体協議										
ア 部会報告										
イ 施策③について協議及び評価										
(2) 第6次加西市総合計画(実施計画)における評価・検証結果への対応について										
(3) 加西市行財政改革プラン(素案)について										
(4) その他										
2 会議資料										
会議次第、出席者名簿、配席図										
資料1～3										
3 会議の経過										
⇒別紙「第4回加西市総合政策審議会の経過」のとおり										

(別紙) 第4回加西市総合政策審議会の経過

発言者	会議の経過／発言内容
会長	<p>1 開会 (会長挨拶) 本日は不安定な天候の中、お集まりいただき感謝する。 前回の部会での作業のような形式で、活発なコミュニケーションがある中で意見が出され審議が進んでいくというのは非常に貴重な場となる。これからの中のまちづくりは、行政が担い、市民はそれを享受するというものではなくなるので、こうした意見を交わすことが非常に重要になる。コンパクトな自治体ならではの取組であり、加西市の優位性になると感じるし、政策に親しんだ皆さんのような方が、地域の様々な方面で活躍されるのは、期待の持てることだと思うので、よろしくお願ひしたい。</p> <p>2 委員等出席者の報告</p> <p>3 議事 (1) 全体協議 ア 部会報告 ※外部評価については、別紙『第6次加西市総合計画（実施計画）政策評価シート』に記載。本議事録では外部評価が内部評価と異なっており、部会長より補足説明があったもののみを記載する。</p>
部会長	<p>部会①</p> <p>政策1 新しい家族と出会い、育むための支援の充実 施策①については内部評価Bに対し、外部評価はC評価とした。理由としては、オンライン化など出会いサポート事業の改善が必要と判断したためである。また、産後ケアについては、加西市内で出産することができないという現状も踏まえ、より充実したものにしてもらいたい旨申し添える。</p> <p>施策②については、内部評価Cに対し、外部評価はBとした。理由としては、子育て支援への充実について評価する声が多かったためである。ただ、ひとり親だけでなく、夫婦の所得が低い世帯への支援の拡充や女性の働く環境整備など、改善が進むように取り組んでほしいという要望も多かった。</p> <p>政策2 子どもの教育の充実 施策④については、内部評価Cに対し、外部評価はBとした。理由としては、ICT教育に非常に熱心に取り組んでおり、GIGAスクール端末による不登校支援など、+αの効果も生み出されていることを評価した。</p> <p>政策4 くらしを支える福祉・医療の充実 施策⑪については、内部評価Aに対し、外部評価はBとした。理由としては、就労継続支援について、事業所によっては厳しい要求をされることもあるとの声がある。市としても状況を的確に把握し、社会的弱者に寄り添った環境整備をお願いしたい。また、地域サロンについては、地域のリーダー不足が叫ばれている。バイタリティーあふれる女性が進出しやすいような雰囲気をつくるなど、リーダー確保に向けた取り組みが必要である。</p> <p>政策12 お互いを認め、尊重し合える社会の実現 施策⑬については、部会内で評価が定まらなかつたため、全体会での協議をお願いしたい。</p> <p>施策⑮については、内部評価Cに対し、外部評価はBとした。理由としては、コロナの影響による住民交流事業への参加数の減少はあるものの、外国人の生活相談の件数は年間250件と大幅に増加していることを評価した。地域活性化拠点施設「soraかさい」についてはコンテンツ等の充実を図り、更なるブラッシュアップを期待したい。</p> <p>部会②</p> <p>政策5 農業の再生と活性化 施策⑭については、内部評価Aに対し、外部評価はBとした。理由としては、農地利用率向上を狙った施策であるにも関わらず、初年度からいきなり下回ってしまっている点である。</p>

部会長 (第2回代理)	<p>この点についてはしっかりと検証のうえ、取り組みを進めてもらいたい。</p> <p>施策⑯については、内部評価Aに対し、外部評価はBとした。理由としては、創業塾の充実や、加西インター産業団地の整備など計画以上に進んでいる部分があるが、Aというには少し物足りないと判断したためである。</p> <p>施策⑰については、内部評価Cに対し、外部評価はBとした。理由としては、移住相談件数が目標を大きく上回っているためその点を評価した。</p>
部会長	<p>部会③</p> <p>政策8 安全・安心に暮らせる環境の充実</p> <p>施策⑯については、内部評価Aに対し、外部評価はBとした。理由としては、民生委員の負担が大き過ぎるため、負担の軽減が必要と判断したためである。</p> <p>政策10 安全性と利便性が確保された都市基盤の整備</p> <p>施策⑰については、内部評価Bに対し、外部評価はAとした。理由としては、市民の生活に欠かせない水の確保について十分な取り組みを行っていると評価した。</p> <p>イ 施策⑯について協議及び評価 事務局より説明（資料1）</p>
委員	部会長として全体会議に諮ることになった経緯について説明（資料1）
委員	障がい者の相談件数のKPIについてだが、施策目標の目的については、『相談がない社会を創る』であると考えられる。そうすると、相談件数だけをもって施策目標の達成度合いを評価することは難しいのではないか。相談件数が減少することが必ずしもマイナスに評価される状況があることにはならないように思う。
副会長	上田尾委員の言われたような側面があることは確かであるが、先ほどの事務局の説明に基づいて考えるなら、「丁寧な対応をしていて時間がかかる」というのは相談者が深刻な状況にあると考えられる。加えて、相談件数の伸び悩みの説明として「マンパワー不足で十分な対応が出来ない」というものもあった。ということは相談需要があつて、尚且つ配置人員不足により対応が出来ていないということになる。であるなら、私は体制整備が不十分であるため、相談件数が目標に届かなかつたという評価をする。
会長	KPIの減少をどのようにとらえるかという意見がだされたが、言われるようにマンパワー不足で必要な相談業務が出来ていないのであれば考えなければいけない点である。
委員	私は支援を必要としている子を育てる親であり、基幹相談支援センターにも関わってもらっているが、時間の調整がなかなかできないことがある。私の周囲の同じ立場にある親を見ても相談まで辿り着いていないケースが多い。障がい児を育てる親は不安が大きいので、相談できる場所があることは本当に重要なので、そういう体制をしっかりと整備してもらいたいと思う。現状は十分な体制とはなっていないように感じる。
会長	相談まで辿り着けていないということについて詳しく説明して頂きたい。
委員	私は相談したい、聞いてもらいたいという思いが強いから相談できたが、中には子どもの障がいを受け入れられない親もいる。また、親が障がいを疑っても、周囲が「大丈夫」というとそれを信じてしまって、小学生くらいまで支援の必要性に気づかないままになるケースもある。基幹相談支援センターの存在についても十分周知されていないように感じる。
会長	こういった相談は自発的にされないケースが多いし、相談することにパワーが必要となるケースもある。そういう意味では、マンパワーが足りない、1件あたりの対応時間が長くなるというのは、対応が難しいことの反映になっている気がする。
委員	皆さんは基幹相談支援センターがどこにある組織がご存じなのか。
委員	私が知る範囲でお答えしたい。障がい児の相談については、就学相談の際に、普通学級にいくか、支援学級にいくかという形で表面化することが多い。ただ、そこから相談に結びつくかは難しい点がある。先ほどから話題になっている基幹相談支援センターは、議会棟の1

	<p>階にあり、障がい者児の相談を総合的に受け付けている。</p> <p>私も支援を必要とする子ども達を対象に体操教室をしていたことがあるが、保護者からは自分の悩みをどこに相談すればいいか分からぬという話をよく聞いた。そういった視点から、KPIにあがっている相談件数について、数が多いことをプラスに評価するのは理解できる。</p>
会長	<p>これまでの議論を総合すると相談件数が多いことをプラスに評価すべきと考える委員が多いようだが。</p>
委員	<p>皆さんからたくさん意見が出ればいいと思い発言させてもらった。発言の真意としては、相談業務が一定のレベルに達しているのであれば、件数が少なくなることはプラスに評価できるということだったが、話を伺うとまだまだ課題も多いようなので、現状では相談をしっかり受け止めて、相談件数を伸ばしていくことが必要であると思う。</p> <p>また、これに関連して、KPIの数値については、外部評価を行う上で重要な指標となるので、しっかりと見直しをお願いしたいと思う。</p>
委員	<p>一点発言させていただきたい。現在市内の障がい者団体は、知的障がい、身体障がいなど障がいに応じて様々な団体がある。団体間の連絡がうまくいっていないので、それを一体にできるように声かけをしている。</p>
会長	<p>立場の弱い方々の団体が連携することは大切である。KPIに対する意見など様々な意見がでたが、障がい者相談に関しては、まずは表に出てくることが重要であり、その表に出てくる数が徐々に減っていくのが理想かと思われる。ただ、現状をみると、まだまだこれからであると感じる。</p>
副会長	<p>我々の会社でもそうだが、積極的に声を集めにいく努力が必要である。我々の会社でも、顧客からの苦情を集めるように努力させている。その努力をせずに、苦情がないから自分たちの仕事がうまくいっていると考えてしまっては、とんでもないことになる。施策③の内容をみると子ども家庭支援員が1名欠員となっているが、相談を集め努力という視点で言えば、早急に人員を整えてもらいたい。</p> <p>私は、現状でいえば施策③について、総合的にみてCという評価を下さざるを得ないよう思ふ。</p>
会長	<p>KPIでみれば施策目標1も未達成、施策目標2についてもまだ増やすべきものであるということを考えると、施策③の評価はCとするべきかと判断するがいかがか。</p> <p>(委員より異議なし)</p>
会長	<p>それでは施策③についてCとする。</p>
事務局	<p>先ほどからKPIについて意見を頂いている。今年度より新様式となっている関係で、KPIについて初めて目にされた方もいらっしゃるかと思われます。議論の中で、評価の目標値や評価の指標自体にそぐわないものもあるので、目標を容易に変更してしまうことは避けたいと考えているが、来年度に向けて変更することも視野にいれながら積極的に検討したい。</p>
事務局	<p>(2) 第6次加西市総合計画（実施計画）における評価・検証結果への対応について 事務局より説明（資料2）</p>
委員	<p>都市計画の話の中で、なぜ宇仁校区が選ばれたのか。</p>
事務局	<p>宇仁校区は、特別指定区域における新規居住者区域というものが市内で唯一存在していた実績に加え、加えて、地域からの要望もあったため選定されている。</p>
委員	<p>加西市民はこういった取り組みが進んでいることは知っているのか。</p>
事務局	<p>特別指定区域の見直しについては、区長様からご意見をお伺いし、様々なご意見をいただいている。新規居住者区域については、前回の見直し時には宇仁地区だけだったが、今回は他地域からも手を挙げていただいている。空き家の増加など地域の状況も変わってきたているので、転入者の受け入れへの意識も変わってきてている。現在は意見を伺う段階であるが、見直</p>

委員	しの進捗に合わせて今後周知を図っていきたいと考えている。
事務局	地縁者とよく言われるが、地域、団体のルールなどを区長は把握されているのか。
委員	都市計画法上、地縁者はその地域に10年以上住んでいる方を指す。新規居住者というのはその地域に全く住んだことがない方を指す。その点については、区長様方に説明をしたうえで制度説明を行っているので、一定の理解をしていただいているものと認識している。
委員	私たちの地域の方でも昼のみ加西市で生活される方など、様々な方が来られているが、草刈りなどのルールが共有されずにトラブルになるケースがみられる。そのあたりの徹底をお願いしたい。町割などにも影響するのではないか。
委員	それは町毎に決められている。ルールもまちまちであるので、そこは市も苦戦しているのではないか。
委員	補足でお伝えしたい。空き家に転入されて来られた方について、自治会のルールを守る、守らないという話はよくある。ただ、これは人権にかかわる話にもなるが、自治会はあくまで任意加入団体であって、加入するのも加入しないのも基本的には自由である。自治会に加入しない、お金を払わないから人権侵害が起きるというのは起こってはいけない。行政としては介入しづらい部分だと思うので、自治会としてどう受け入れるか、入ってくる人に対してどう対応するかというのが重要である。入ってきても地域とのトラブルで出て行ってしまうことが多く、その割合は市街化区域と市街化調整区域でかなり差がある。難しいとは思うが行政にもそういった差をなくすような取り組みを期待したい。
会長	私は県の審査会委員もしているので、県下の特別指定区域の認定状況をある程度把握しているが、加西市の場合は新規居住者住宅区域の指定区域というのを宇仁地区が初めて設定した。それぞれ各校区や町、まちづくり協議会にこうした制度が周知されるのだと理解している。そのうえでそれぞれの自治体の判断で新規居住者の住宅区域が設定される。今回、宇仁地区が指定されているが、今後こうした制度について更に周知していくというプロセスになるのかなと思う。
事務局	(3) 加西市行財政改革プラン（素案）について 事務局より説明（資料3）
委員	15ページの財源について。令和4年度のふるさと納税収支について、差し引きで考えればよいのか。
事務局	ふるさと納税は受入額の半分までが必要経費と認められている。令和4年度であれば20億円のうち半分は送料やポータルサイトへの委託料などに充てている。最近は受入額が多くなっているので、まず受入額の全額を一般会計に計上し、歳出は事業費に充てられない部分はふるさと応援基金に積み立て繰越としている。必要経費は歳入全体からふるさと納税推進事業として支出する方法をとっている。
委員	15ページの表を見ると、令和5年度から受入金額が減っているが、これはそういった予測があるのか。
事務局	ふるさと納税制度が平成20年にできて以来、糾余曲折を経て今の形になっている。全体の受入額が8,300億円といわれている。都市部の税収減などの弊害も生じており、制度がどのように継続していくか不透明になっている。制度の存廃だけでなく、縮小も含め不透明であるので、長期の財政見通しには含めないこととしている。予算確定頃には翌年度のふるさと納税の動向もわかるので、それを確認して短期見直しは行っている。
委員	ふるさと納税は加西市にとって重要な制度なのでしっかりと取り組んでいただきたい。病院拠出金については、建設とは別のものか。
事務局	病院については詳細設計を行っている。15ページにある病院事業への繰出金は病院建設とは別枠である。昨年はコロナ関連で空床補助もあり、病院経営は黒字となっている。
委員	加西病院の赤字増大もあるようなので、ふるさと納税には頑張ってもらいたい。

副会長	国の制度もあるが、市の返礼品の人気がいつまで続くかという問題もある。来年度くらいまではトレンドが読めると思うが、それより先は未知数ではないか。私が不安に感じるのは、想定していない収入があった場合の使い道である。本来行政は計画に沿って、いかに有効に支出していくかが問われる。収入や使い方について計画的な部分と計画外の部分も含めて運営を見ていかないと、本来の意味での行革プランにならないので、そのあたりはしっかり考えていただきたい。
事務局	確かにふるさと納税バブルのような印象は受けられると思うが、事業実施計画の中では建設事業費一般財源9億、起債発行額8億といった制限をかけて次年度以降の事業査定を行う。いくらでも使えるという意識で財政計画をたてているわけではないので、よほど大きな景気変動がない限りは安定的な運営が可能であると考えている。
副会長	それは理解しているが、増えたときの準備も必要ではないかというのが先ほどの発言の意図である。想定外の収入の使途についても十分な議論を行ったうえで決定していただくようにお願いしたい。
委員	ふるさと納税による税収減はどれほどあるのか。
事務局	一昨年度の数値になるが、ふるさと納税による加西市の税収減は1億円と少しくらいだったと記憶している。ただ税収減となったものは4分の3が交付税対象となるので、実際の税収減は2千万～3千万程度である。
委員	3ページに『見える化』という表現があるが、本来すぐに数値で見えないものを、データ化するなどして見えるようにすることを指し、もともと数値で把握できるものには使わないと聞いている。一般化されるにつれて言葉の定義が変わっているのかもしれないが、その点も考慮した表現にしてもらえればと思う。
会長	市民に伝わりやすい表現にしてもらえればと思う。 『参考』 ここでの『見える化』は、単なる数値を示すのではなく、住民一人当たり、他団体や平均との比較により分かりやすく掲示していくことを意味している。
事務局	4 その他 本日で全ての審議を終え、委員の皆様より意見を伺い、来年度の審議会の進行等に活かしたいと考えている。良かった点や改善が必要な点等感じられたことをお話しいただきたい。
委員	部会での審議の際に、時間が少ないように感じた。
委員	全体で諮り、全員で考えることができた。今回全体で諮ったテーマについては、特に重要なテーマだった。KPIに関する意見も出ていたが、是非考えてもらいたい。
委員	昨年に比べれば施策の数が減っており、部会でもよく話が出来たように思う。
委員	初めて参加になり、良い勉強をさせてもらえたと思っている。
委員	部会で話し合う際に、「このKPIでいいのか」と感じるものがあり、議論も難しく感じた。次年度ではその点の修正がなされることを期待したい。
委員	加西市が活力のあるまちになるには、地域の中で動脈・静脈の働きがあることが必要。皆さんから沢山の心をいただいたと感じている。
委員	部会作業の際に、事務局から説明があったので議論がしっかりとできたり、他部会からの意見があつて議論が深まったという面もあった。来年度以降も継続してもらいたい。
委員	女性が審議会参加され、女性の意見を述べるというのは大事だと感じた。様々な立場の人の意見が反映されていくことが望ましいと考える。自分自身も思いをしっかりと発信しなければならないと改めて感じさせられた。
委員	私はPTA会長という立場で参加しているが、PTA会長はクジで決まっているので、積極的に

	<p>意見を表出する人もいれば、そうでない人もいる。子育てに関する意見はしっかりと発信してもらいたいという気持ちがあるので、そのあたりも考慮にいれて審議会のメンバーを選んでもらいたい。</p>
副会長	<p>時間的に余裕がなかつたので、もう少し余裕をもった審議会運営が出来ればいいかなと感じた。内部評価が非常に守りに入っているように感じさせられた。我々としては批判・批難をしたいわけではないので、もう少し率直な現状を書いていただき、それに対して意見をしたり、助言をする場にしていきたい。</p>
委員	<p>市政のことを勉強させていただいた。働く者の代表として、市政にもっと声をあげていかないと、よい加西市になっていかないと感じた。また楽しく働かれている皆さんからの声を、もっと拾っていかないといけないなどの気持ちを新たにした。</p>
委員	<p>2点お願いしたいことがある。1点目は資料の【障害者】とあるのを【障がい者】とひらがな表記してもらいたいこと。害という字がよい印象を与えないでお願いしたい。2点目は、いじめやDVなど様々な問題において、家庭教育という視点をいれてもらいたい点。行政として家庭教育へのスタンスを示してもらいたい。</p>
委員	<p>資料にページを振ってもらいたい。他の会議でも時折あるのでよろしくお願いしたい。コロナのこともあるが、マスク越しだと聞き取りにくい。</p> <p>また、評価については、政策の結果だけでなく、予算段階から全体を通しての評価であるほうが良いのではないかと思う。</p>
会長	<p>他市の会議に出ているが、加西市の全4回の審議会というのは、限られた時間の中で実質的な議論をするギリギリのスケジュールなのが感じさせられた。皆さんの試行錯誤のあっての成果であり、顔が見える距離で議論できたのは非常に良かったなと感じた。</p> <p>今回の審議会で意見のあったKPIの件などは、次年度以降に変えるべきところを変えてもらいたい。数値目標をあげると、数値を達成することが目的かしてしまうケースもある。KPIについてはブレてはいけないが、柔軟に考えることも大切だと思う。</p>
事務局	<p>いただいた意見については、しっかりと受け止めたうえで、次年度以降に向けて検討していきたい。</p>
委員	<p>(閉会)</p> <p>みなさんには、下調べも含め貴重な時間を使っていただき、熱心な議論をしていただき感謝している。</p> <p>部会の際には、市の幹部の方々が、みなさんに説明をされたと思うが、そういったこともなかなか無いことである。非常に貴重な機会だと思う。</p> <p>来年以降もあるので、参加する以上は自分の意見を伝えてもらいたいし、入れ替わりのある方は次の方にもしっかりと引き継いでいただきたい。</p> <p>そして自分自身が市の取組を広めるインフルエンサーになり、まちの中へ発信してもらいたい。そしてまた、まちの声を吸い上げて審議会の場に戻すという、循環の役目を果たしてもらえるよう頼っている。</p> <p>本当にありがとうございました。</p>
ふるさと創造部長	<p>この会議だけで皆さんの時間を10時間ほど頂戴した。下調べも含めると、本当にたくさんの時間を頂戴したことになる。今回いただいた意見、ご指摘については、担当課を含めた我々でしっかりと咀嚼して市政に反映できるようにしたいと考えている。</p> <p>4か月間たくさんの時間を頂戴しまして本当にありがとうございました。</p>